

平成 26 年度

視察等の届出・報告書

(届出番号 16～20)

平成26年度 視察等の届出・報告書 (16~20)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
16	8月6日 ~7日	妹尾智之	岩本壯八	岡山市 (第9回全国市議会議長会研究フォーラム)



様式第1号

平成 26 年 8 月 1 日

真庭市議会  
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 妹尾 智之



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

岡山シンフォニーホール

3 内 容

第9回全国市議会議長会研究フォーラム

4 行 程

8/6,7

別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼

必要

不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

公明党真庭市議団 研修日程表

期 日	行 程
8月 6日(水)	真庭市 → 岡山シンフォニーホール 10:00 12:00 岡山シンフォニーホール → 真庭市 17:00 18:30 参加者：岩本 壮八、妹尾 智之
8月 7日(木)	真庭市 → 岡山シンフォニーホール 6:40 8:10 岡山シンフォニーホール → 真庭市 11:30 13:00 参加者：妹尾 智之

【 研修先 】

岡山シンフォニーホール

議長 副議長 局長 GL 係 回覧



洋式第2号

# 報告書

平成26年8月8日

報告者 議員氏名 岩本 壯  
妹尾 智



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・**研修会**・要請陳情活動 をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 平成26年8月6日 (午前・午後) 9時30分 至 平成26年8月6日 (午前・午後) 19時15分
2	場 所	岡山市北区表町1丁目5-1 岡山シンフォニーホール
3	用 件	第9回全国市議会議長会研究フォーラムの参加
4	概 要	<p>【8月6日】</p> <p>○開会行事 (佐藤祐文全国議長会会長、則武宣弘岡山市議会議長、大森岡山市長)</p> <p>○基調講演</p> <p>「人口減少時代と地方議会のあり方」</p> <p>講師：増田寛也氏 (野村総合研究所顧問、元岩手県知事、元総務大臣)</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p>コーディネーター：牛山久仁彦氏 (明治大学教授)</p>

報告書 (継紙)

平成26年度 視察等の届出・報告書 (16~20)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
17	8月6日 ~7日	氏平篤正	入澤廣成・ 宮田精一	岡山市 (第9回全国市議会議長会研究フォーラム)



様式第1号

平成26年7月30日

真庭市議会

議長

長尾修 殿

真庭市議会議員

氏評篤正

(真和合) 宮田精一

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

入澤廣成

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

出山町 出山交流センター  
26.7.6 ~ 26.8.7

3 内 容

第9回全国市議会議長会研究  
フォーラム

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



様式第2号

# 報告書

平成26年8月8日

報告者 真庭市議会議員 氏名

氏平 賢正

(真和会)

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究 (研修会) 要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 平成26年8月6日 (午前・ <u>午後</u> ) / 時 00分 至 平成26年8月6日 (午前・ <u>午後</u> ) / 時 30分
2 場 所	岡山市 岡山シンフォニーホール ホテルグランビエール岡山
3 用 件	第9回全国市議会議長会 研究フォーラム
4 概 要	① 基調講演「人口減少時代と地方議会のあり方」増田寛也氏 (野村総合研究所顧問) 岩手県知事を12年に現職にあり、人口減少は小学校の統合問題がすでに分かる。東京が一番厳しいと、地方から東京へ若者の流出を言うが、東京 VS 地方で存在、地方には打つ手がある。議会に若い人が必要である。働く場所を作ることと言っていた。根拠なき悲観論は必要ないと言っていたが、真庭市の総合計画の策定方針には悲観する所がある





## 平成26年度 視察等の届出・報告書 (16~20)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
18	8月23日 ~24日	岡崎陽輔		東京都・多摩住民自治研究所「第18回議員の 学校」(人口減少社会と公共施設等についての 研修会)



様式第1号

平成26年8月18日

真庭市議会  
議長

長尾修 殿



真庭市議会議員 岡崎陽輔

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

東京都日野市富士町1番地  
富士電機能力開発センター  
NPO法人多摩住み自治研究所主催第8回議員学校

3 内 容

・公共施設白書から見えた施設運営と財政の課題  
・都市計画のインターから見た公共施設計画  
・人口減少社会と公共施設等についての研修会

4 行 程

8/23, 24  
別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要

不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

第8回議員の学校行程表

8月23日(土) 真庭市 → 岡山空港 → 羽田空港  
 羽田 → 水戸 → 豊田 → 富田 → 富田遊能力  
 開業ビル -  
 宿边 立川市

8月24日(日) 立川市 → 豊田 → 羽田空港 → 岡山空港  
 → 真庭市着

平成26年度 視察等の届出・報告書 (16~20)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
19	9月27日 ~28日	河部辰夫	中尾哲雄・ 初本勝	鹿児島市・地方議員研究会（総合計画について）・霧島市（温泉地の活性化についての取組）



様式第1号

平成26年9月10日



真庭市議会  
議長

長尾修 殿

真庭市議会議員

浜部 誠

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究、研修会、要請・陳情活動

2 訪 問 先

地方議会研究会 鹿島町会家  
サン70ササ天文館  
霧島温泉郷

3 内 容

(※総合計画については)

※温泉地の活性化についての取組み

4 行 程

別紙のとおり 9/27.28

5 事務局から訪問先への依頼

必要

不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



研修会参加者行程表及び名簿

9月27日から9月28日 鹿児島サンプラザ天文館地方議員研修会場

9月27日 久世市役所～岡山駅新幹線～鹿児島中央駅～サンプラザ天文館（研修）宿泊  
6、30分 7、42分 10、45分 13、30分

9月28日 ホテル～霧島温泉郷（視察）～～鹿児島駅～～岡山駅～～久世市役所  
8、30 9、30-12、00 13、42分 16、58 18、00分

参加者 河部辰夫、 初本勝、 中尾哲雄

様式第2号

議長

副議長

局長

GL

係

回覧



# 報告書

平成26年10月8日

真庭市議会議長 **長尾倫** 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名

**河部辰夫**

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究 研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 平成26年9月27日 (午前・午後) 6時00分 至 平成26年9月28日 (午前・午後) 7時00分
2 場 所	鹿島郡市天文館カンパザ「地方議員研究会」 鹿島郡会場 及び霧島温泉郷調査
3 用 件	総合計画についての研究と温泉地の現状 について
4 概 要	別紙



\*総合計画は有効か

1、政策体系と総合計画（予算編成との合理性）

「前年対比という呪縛・思考停止 必要なゼロベース、サンセット型の思考がいる。成熟型社会に必要な「戦略計画」配分計画には、総合計画。重点政策には戦略計画 戦略計画には専門性と政治性が必要である。既得権を打ち破る専門性、地域の未来への構想力とロマン。

2、「整合性」という畀

誰も全体像がつかめない「複雑系」。一歩先が読めない変化の激しい時代である。幻想に過ぎない「利害の一致」。拡大する格差。縦割り、総合計画、整合性の終焉。プロジェクトからプロジェクトへ、

3、プロジェクトの意義

総合計画の「べき論」と事業計画の「現実論」。具体的なプロジェクト（実施、手法、変更～）。目に見える、理解しやすさ（合意形成）

戦略性を発揮する「一点突破」、「波及効果」

明確な責任体制による人材育成効果、制約を突破する創意工夫。

人が育てば、次につづくことになる。

総評として総合計画ありきの捉え方は一考する必要がある。

\*霧島温泉郷 活気がある。観るべき温泉施設。資源が造られている。例えば30万坪の山に3万本の100年杉の雄姿は感動を覚える。わび、寂が心にしみる。また霧島川の清流を活用して若人が芋焼酎とペットボトル水を生産する。「明るい農村」という法人を立ち上げ経営している。特に森林の恩恵に浴している真庭市民にとって必見の価値有り。

政務活動費対応明細	3名分	合計	1人分
交通費		138834	46278
(内訳) 岡山駅～鹿児島駅 (山陽、九州新幹線) 往復		112620	37540✓
オリックスレンタカー		13000✓	4333
高速道 通行料		5130✓	1710
駐車料金		3800✓	1267 <sup>6</sup>
燃料代		4284✓	1428
宿泊費 (霧島ホテル)		36000	12000✓
研修費 (セミナー受講料)		45000	15000✓
		219834	73278 <sup>7</sup>
		(1人あたり経費 ¥73278)	

本人に確認済

平成26年度 視察等の届出・報告書 (16~20)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
20	10月22日 ~24日	古南源二	池田文治・ 原秀樹	大阪府八尾市（JA大阪中河内直販所「畑のつづき」）・和歌山県有田川町（山椒の栽培）・和歌山県田辺市（第8回全国水源の里シンポジウム）



様式第1号



平成26年 9月11日

真庭市議会  
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 古南源二



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

JA大阪中河内「畑のつづき」
有田川町役場清水行政局
第8回全国水源の里シンポジウム

3 内 容

大阪近郊都市の直販店の状況を調査研究。
有田町は山椒の栽培、販売、農家の状況について調査研究。
田辺市では、水源の里シンポジウムに参加して、産業、生活を調査研究。

4 行 程 別紙のとおり 10/22~24

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



第8回全国水源の里シンポジウム参加行程表

10月22日					
出発	7:15	自家用車で移動	10:00~	午後から	18:00着
			JA大阪中河内 直販所「畑のつづき」視察 八尾市山本町南7-13-22 072-920-9030	有田川町大字清水387-1 有田川長清水行政局 特産物「山椒」の視察 0737-52-2111	紀州みなべロイヤルホテル 日高郡みなべ町山内大目津泊348 0739-72-5500
			(6/9時点返事待ち)		予約済み
23日					
			到着11:30	駅からリムジンバス発	12:50
			田辺市駅前で昼食	12:00	和歌山県田辺市 龍神市民センター
					16:00~20:00
					龍神温泉
24日					
		地域林業コース			
ホテル発	8:00	ごまさんスカイタワー 土産物店あり	備長炭記念公園 土産物店あり	秋津野ふるてん バイキング屋敷かも?	田辺駅14:00 船着
					帰着18:30

同行参加者：原秀樹、池田文治。



様式第2号

# 報告書

平成26年11月4日

報告者 真庭市議会議員 氏名 古南源二 

下記のとおり政務活動費を使用して **調査研究**・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を代表して報告いたします。

1	日 時	自 平成26年 10月22日 (午前・午後) 7時 00分 至 平成26年 10月 24日 (午前・午後) 8時 30分
2	場 所	八尾市山本町7-13-22JA大阪中河内「畑のつづき」 和歌山県有田川町大字下津野2018-4有田川町清水行政区 和歌山県田辺市龍神村龍神市民センター
3	用 件	大阪近郊都市の直販店の状況を調査研究。 有田町は山椒の栽培、販売、農家の状況について調査研究。 田辺市では、水源の里シンポジウムに参加して、産業、生活を調査研究。
4	概 要	別紙

日	時間	内容	時間	内容
10月22日	7:00	出発 自家用車で移動	18:00	着
	10:00~	JA大阪中河内 国産産「畑のつづき」視察 八尾市山本町7-13-22 072-928-9000	午後から	紀州みなべロイヤルホテル 予約済み 日高町みなべ町山内大目津348 0739-72-5500
			12:50	16:00~20:00
23日	到着11:30	田辺市駅前で昼食	12:00	和歌山県田辺市 龍神温泉 龍神市民センター
24日	8:00	地域林業コース ごまさんスカイタワー		途中事故で遅れた 田辺駅14:00 帰着20:30 概数

別紙1

大阪八尾市山本南町の住宅街にあるJAが経営する「畑のつづき」

説明者は所長の左海恵司。

近鉄安高駅から西に200mほどに位置し、JAのATMもある。

平成20年5月オープン。

店舗40坪、駐車場40坪、半分は駐輪場あまり大きくはない。車4台がやっと駐車できるほど。従業員は3名、内1名は農協職員。パートは6名。

同様の店他に4店舗あり出荷会員数は350名。

この店の登録者は200名ほど、毎日出荷するのは100名程度。

生産者は500m～10 kmに居住しており平均100坪程度の圃場出生産している。

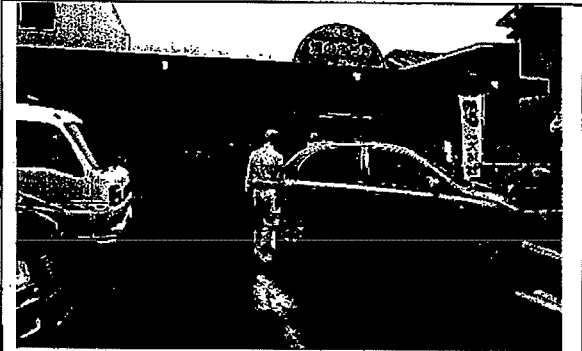
出荷者は、バーコードで表示され自己生産品を生産者、仕入れ販売物を販売者と区別している。

出荷者の7割は女性である。

出荷者の写真を壁上部に張り付けて、顔の見える店づくりをしている。

搬入は、7時から搬入可能で9時までに済みます。販売時間は9時から5時まで。

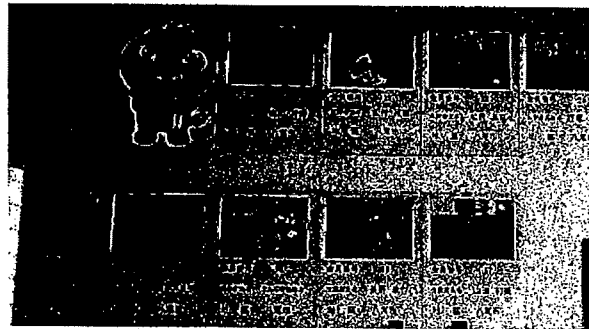
単価は野菜で100円位に抑え量販している。しかし、60円とか70円とかは安すぎて弊害を招く為ダメ。



畑のつづき八尾店



店内の様子



冬は鍋物用の野菜が多く出る。

地域の特産物は葉ゴボウ。米は玄米で販売し精米して持ち帰る。

周辺の住民は、古くからの住宅が多く、高齢者も多い事から仏花が良く売れる。

販売手数料は加工品には20%~35%、野菜など生産者自らの加工品には15%の手数料にしている。

柿150円、仏花350円、ユリ480円。

生鮮物の売れ残りは午後3時半以降に取に来る。また水曜日、土曜日にはすべての商品を一度は引き取る。日持ちのするものは再度販売コーナーに入れることもある。

ポジティブリストを推奨している。問い合わせもある。最低でも薬剤散布から1週間以内は出荷させない。

生産者の年間売り上げは、生産だけでなく仕入れてから販売する花卉が一番多く1000万円を超える人も居る。



店内の様子(仏花)

野菜のみ出荷する人は200~300万円までと言う。

生産には農協の指導員が、少量多品種の生産を指導しているが、生産者は高齢者が多く、経験を重視して言うことを聞かずうまくいっていない。

管内の山手ではミカン(温州)が栽培されており、出荷がある。

餅は日にちを決めて販売する。

視察日に初めての白菜入荷。大きいものは敬遠されがち。切り割って販売すると中央が盛り上がりよろしくない。

今年9月の売り上げは、1400万円ほどあり、毎週日曜日を定休日としている。一週間を通してみると土曜日の売り上げが多いことがわかる。

平成13年の売り上げは12,572万円。大きく黒字にはならないが、赤字にはなっていない。真庭市との比較検討をしてみる必要があるだろう。

有田川町の山椒を視察。

山椒の生産日本一をうたっている有田川町清水地区を訪問。

清水行政区で説明を受けた。

JAありだ清水営農センター長サコ佳永氏、議会事務局長中西満雄氏、副議長岡省吾氏、辻岡敏明議員・小林英世議員、産業振興室長山本勝敬氏・主任福本泰代氏の7名で歓迎を受けた。



清水行政区会議室。中を左からJAサコ氏、岡副議長、辻岡議員、小林議員、中川事務局長、福本主任、山本産業振興室長。大勢から歓迎を受けた。

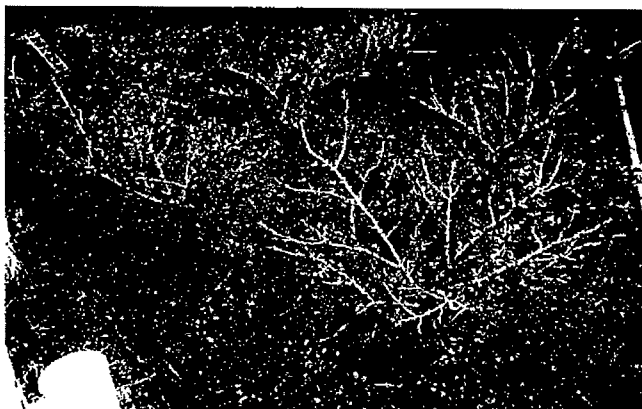
平成23年度栽培面積は105ha。平成25年度清水山椒生産組合員数は266名。5月～6月収穫の生実山椒出荷は、92名、10トン。7月～8月収穫の乾燥山椒は217名、49トン。

JA有田全体では生実山椒60トン。乾燥山椒60トン。

平成26年度生実山椒90トン。乾燥山椒95トン。(販売計画に基づいての出荷量)

収穫量は開花時期の天候に大きく左右される

当清水地区では山椒の生産は古く1250年頃の文献に記されている。当時は主に薬用としてアサクラ・オオクラという品種の栽培だったと思われる。



これくらいの間隔で植えるのが理想。1反あたり70～80本。



現在は、ブドウ山椒（接ぎ木）と呼ばれるものが栽培されている。天保時代に遠井村で突然変異によりできたとされる種類で、実の粒は大きく、香り、辛みとも高品質なので、有田川町野遠井地区（標高 500～600m）で栽培されるようになった。

生で出荷する場合と乾燥させて出荷するものがある。

乾燥山椒は一般の農産物とは異なり特殊な産物である為、古くから産地商人が買い付け、問屋を経由する流通が行われて、生産者が個々に産地商人と取引していた。豊作や不作の差が大きく、性に言いを買いたたかれる年もあった。

昭和 48 年当時の清水町内に野山椒生産者 200 名が参加して清水町山椒生産組合を設立し、産地商人に頼っていた山椒の流通を生産者の手に取り戻した。

組合の活動は、栽培技術の向上と共同販売による価格の安定で有利な販売を行う事が出来た。

各戸まちまちであった栽培技術を統一するため、普及所等の支援を受けながら栽培技術の研究、施肥基準づくり、剪定講習会で作業性向上や実の増収を図り、組合員が参加して栽培。出荷の講習会などを実施している。

生産された山椒の販売は、生産組合発足当時から、農協での一元集荷、一元販売を行い取引先への量的な対応を行い価格の安定に努めている。

今後の山椒生産・販売については、栽培面積も全国的に拡大しており実山椒（5～6 月収穫）は、高知県産の早期出荷や競合産地の出荷野集中により市場の販売単価も年々低下している。

今までであれば、市場価格が低下すれば、香辛料・薬品用としての感想山椒（7～8 月収穫）への選択肢もあったが、逆に実山椒の栽培面積の増加や安値により乾燥山椒の終了が増大しており、販売ルートの確立を行ったうえで栽培・増産を考える必要がある。

平成16年度から県の帆鍍金を利用して、3か年計画で「しみず山椒の里プロジェクト」(町、JA、生産者、商工会、観光協会、和歌山県等の関係機関で構成)を構成し山椒の商品開発を進めた。

平成19年以降は県内外の食品製造業者に協力を得ながら商品開発を進めながら、地元で山椒加工に取り組む起業家を育成し、さらなる消費者層の獲得を目指して外食産業や各家庭での利用拡大を推進している。高校生による「カレー甲子園」にも山椒カレーを出した。



有田町清水地区には「あらぎ島」(上の写真)という珍しい風景がある。旧清水町は秋篠宮妃紀子様の祖父の出身地であり、結婚後この地を訪れている。

現在、食品会社とともに開発した商品は、山椒焼酎、山椒の梅酒、山椒ビール、山椒塩、山椒あられ、山椒ラーメン、山椒アイスなどがある。さらなる商品開発を目指し、全国へブドウ山椒の発信を進めている。

### 全国水源の里シンポジウム

真砂充敏田辺市長から歓迎の挨拶があり、昨集中豪雨が報道されるたびに森林の適切な保全の必要性を感じ、水源の里、里山の役割屋や大切さを痛感している。「上流は下流を思い、下流は上流に感

**「里山資本主義」的地域活性化を**

① 欧州型の外貨獲得: 安さではなくブランドで勝負  
 当地独自の生活文化に支えられた、ハイセンス・少量・高単価の「地域ブランド商品」「生活文化観光」で外貨を稼ぐ(「いま」を「こ」にしかないものを売る)

② 地域内資金循環の拡大: 稼ごうを多く稼ぐ  
 地域内産の食材、建材、人材の養を上げて地元で消費(外からの支物は使わない)、未就労女性や障がい者も雇用し、時短で「時給」を高め、兼業を奨励する

③ 地域内エネルギー循環の拡大: 極力地元産を活用  
 地域内の建築物には地元産木材を使い、木質の燃焼・利用を進める。小水力・風力・地熱+廃熱を余さず使う。

謝する」という基本理念に基づき水資源・森林と里山の維持や重要性を、この龍神村村から全国に発信することで都市と里山の結びつきを再確認する機会にしたい。と結んだ。

龍神村は田辺市市街地化から車で約1時間ほどかかり、辺りは植林が山頂付近までされており林業中心の地域だ。温泉があり高野山参拝の後の温泉保養にも利用がある。

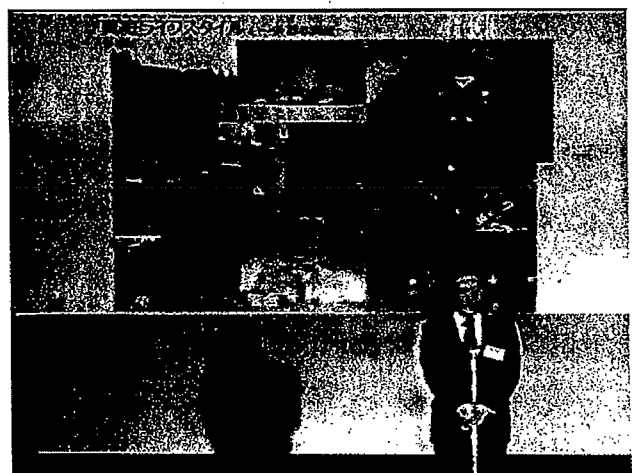
写真コンテストでは、真庭市の「水ごり」大津神社の余野川で新年参拝の水ごりではないかと思われる写真が選ばれていた。

基調講演では、藻谷浩介氏が里山資本主義・水源の里の可能性と題して講演がなされた。

真庭市で行われたように、人口動態グラフを用いて、参加者を回答者にした講演内容には、参加者も聞き入っていた。里山の可能性を論じ、再生可能エネルギーの話は大きな感動を与えたことであろう。

里山の可能性も都会に住んでいる住民が藻谷氏の里山資本主義論に共感を覚え、田舎に生活の場を求めることにならなければ机上の空論のように思えてならない。都会の人口の5%でも田舎に移動させることが出来れば言うことはない。

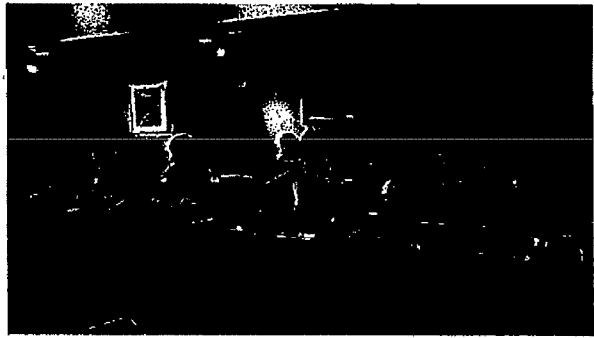
パネルディスカッションでは、河口真理子大和総研研究員をコーディネーターにパネリストは、藻谷氏、田辺市長、IBMを退社後世界を回り飛騨高山で田舎の案内人をしている山田氏をはじめ、東京大学大学院を卒業して福岡県上毛町に移住し地域お



こし協力隊と農業をしている西塔氏、中辺字路町に移住している辻野氏が現在の活動内容を紹介し、今後の希望を述べていた。

最後に次回開催都市に真庭市が決まり、太田市長が次回開催地としての挨拶と抱負を述べていた。

夜行われた懇親会では備長炭で作った楽器「炭琴(たんきん)」の演奏が披露され、「ふるさと」の演奏と備長炭の澄んだ音色は素晴らしかった。(右の写真)



2日目は竜神温泉からさらに奥、車で坂道を上る事約40分、一気に標高600m以上も上った。和歌山県最高峰護摩壇山近くにある展望台に向かった。前日は霧がかかって何も見えない状況だったと、指定管理をしているNPOの職員が話していたが、標高1300mのごまさんスカイタワーからの眺望は素晴らしく、有田市の海まで見えた。連なる連山は紅葉が始まりかけていた。次の視察地に向かう為、車は坂道を一気に1000mも下る事約1時間。



備長炭記念館。説明人から備長炭の発祥や当時の炭焼きの生活様式などを聞きながら記念館の中を巡った。江戸時代炭の販売商備中屋長左衛門の名前から備長炭と呼ばれるようになったとか。備長炭は土佐、日向などがある。



備長炭の炭焼き窯の内部。煉瓦造りだ。

備長炭の炭焼き窯もみることが出来た。大きいもので 1 回に700kgほどの炭を焼くことのできる窯があった。1 回焼くと製品になるまで 2 週間ほどかかる。

紀州備長炭は、ウバメガシを原料にしており、原木は周囲の山に自生している。個人で伐採する人、伐採人に委託する人、1 窯分 15 万円ほどの原木を購入する人等様々である。

この地域の炭焼きは手前の入口から入り、原木を立ててから着火する。高知県では着火して窯の上部の口から原木を投入する方法もある。後述の方が多くの炭が焼けるという。

炭の単価はkgあたり 1000 円から 1500 円ほどである。備長炭はうなぎ店をはじめ高級料亭などで利用されており、焼いた炭はすべて販売され、手元に残ることはないが、炭焼きのみで生活するのは難しいようである。

炭焼き研修生として、県内や関東から移住している人がいた。

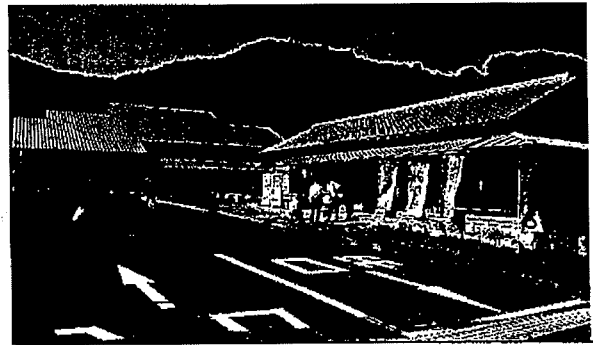
窯出しの校外学習に訪れる学校もあるという。視察の前日、大阪の生徒が窯出しをして灰をかけている窯もあった。

秋津のガルテンで昼食。

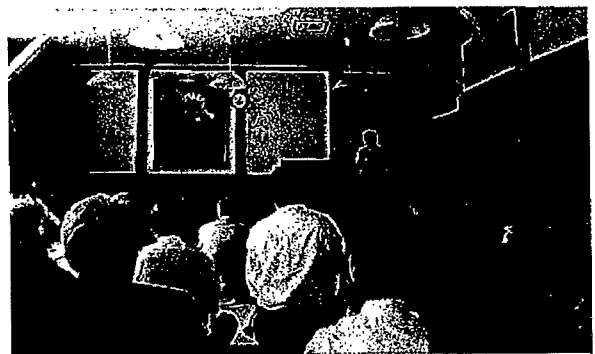
田辺市街近くまで帰ると、秋津野ガルテンに着いた。昭和 28 年に建てられた古い校舎(写真右下)を改装して宿泊施設、食堂、売店を備えた施設であった。旧遷喬小学校の方が高級感もあり価値がちがう。



真っ赤な炭を取り出して手前で灰をかけてある様子。



備長炭記念公園風景



館長から施設の紹介(写真右上)があり、地域の主婦が作った、手作りのバイキングランチをごちそうになった。

メニューはわかめご飯とカレーライス。おかずはこんにゃく料理 2 点、てんぷら、おひたし、筑前煮など 10 品ほどである。デザートのコーヒーもあり、食べ放題ですべて無料が何よりも良かった。

地域の協力が無ければ何事も進まないのが現状であるが、この地域は良くとまっている感じがした。

綾部市からの視察団は、次の視察先の農産品販売所には行かないということなので、我われの車も行かないことにして田辺駅に直行。車には三重県津市の女性職員、島根県美郷町長、広島県神石高原町長が同乗しており、山間地の問題など有意義な会話が弾み「来年必ず真庭市においで下さい。お待ちしております。」とお誘いをして固い握手で解散した。

以上 3 人を代表して報告します。



平成26年度  
視察等の届出・報告書  
(届出番号16～20)

平成26年度 視察等の届出・報告書 (16~20)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
16	8月6日 ~7日	妹尾智之	岩本壯八	岡山市 (第9回全国市議会議長会研究フォーラム)





様式第1号

平成 26 年 8 月 1 日

真庭市議会  
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 妹尾 智之



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

岡山シンフォニーホール

3 内 容

第9回全国市議会議長会研究フォーラム

4 行 程

8/6.7  
別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼

必要

不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

公明党真庭市議団 研修日程表

期 日	行 程
8月 6日(水)	<p>真庭市 → 岡山シンフォニーホール 10:00 12:00</p> <p>岡山シンフォニーホール → 真庭市 17:00 18:30</p> <p>参加者: 岩本 壮八、妹尾 智之</p>
8月 7日(木)	<p>真庭市 → 岡山シンフォニーホール 6:40 8:10</p> <p>岡山シンフォニーホール → 真庭市 11:30 13:00</p> <p>参加者: 妹尾 智之</p>

【 研修先 】

岡山シンフォニーホール

議長 副議長 局長 GL 係 回覧



洋式第2号

# 報告書

平成26年8月8日

報告者 議員氏名 岩本 壯  
妹尾 智



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・**研修会**・要請陳情活動 をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 平成26年8月6日 (午前・午後) 9時30分 至 平成26年8月6日 (午前・午後) 19時15分
2	場 所	岡山市北区表町1丁目5-1 岡山シンフォニーホール
3	用 件	第9回全国市議会議長会研究フォーラムの参加
4	概 要	<p>【8月6日】</p> <p>○開会行事 (佐藤祐文全国議長会会長、則武宣弘岡山市議会議長、大森岡山市長)</p> <p>○基調講演</p> <p>「人口減少時代と地方議会のあり方」</p> <p>講師：増田寛也氏 (野村総合研究所顧問、元岩手県知事、元総務大臣)</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p>コーディネーター：牛山久仁彦氏 (明治大学教授)</p>

報告書 (継紙)

平成26年度 視察等の届出・報告書 (16~20)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
17	8月6日 ~7日	氏平篤正	入澤廣成・ 宮田精一	岡山市 (第9回全国市議会議長会研究フォーラム)



様式第1号

平成26年7月30日

真庭市議会

議長

長尾修 殿

真庭市議会議員

氏平篤正

(真和会) 宮田精一

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

入澤廣成

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪問先

出山町 出山公民センターホール  
26.8.6 ~ 26.8.7

3 内容

第9回全国市議会議長会研究  
フォーラム

4 行程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



様式第2号

# 報 告 書

平成26年8月8日

報告者 真庭市議会議員 氏名 氏平 篤正

(真和会)

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究 (研修会)・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 平成26年8月6日 (午前・ <u>午後</u> ) / 時 00分 至 平成26年8月6日 (午前・ <u>午後</u> ) / 時 30分
2 場 所	岡山県 岡山シンフォニーホール ホテルグラーベア岡山
3 用 件	第9回全国市議会議長会 研究フォーラム
4 概 要	① 基調講演「人口減少時代と地方議会のあり方」 増田寛也氏 (野村総合研究所顧問) 昔年息子を12年に現職にあり、人口減少は小学校の統合問題が中心か、東京が一番厳しいと、地方から東京へ若者の流出を言うが、東京 VS 地方で考え、地方には打つ手がある。議会に若い人が必要である。働く場所を作ることと言っていた。根拠なき悲観論は必要ないと言ったが、真庭市の総合計画の策定方針には悲観する所がある

より思った。また、自治体へのものが少ない。議員に記者が居るから議員定数を減らしていい。抜いた放題の感がある。25年先の人口減を語った真直市だ。25年先は広報紙-記念の全国広報サミットをやった。その名刺が無くて存在を忘れた。もう少し地味にうたを語っていいのではなか。今一生懸命に示して欲しい。117-101-1の資料は別添大会資料にある。

② 117-101-1の資料は別添大会資料にある。あり方、コーディネーター牛山久仁彦氏(明治大学教授) 117-101-1 林宣嗣氏(関西大学教授) 穂坂邦夫氏(元志木市長) 土山希美枝氏(龍谷大学教授) 城本勝氏(NHK解説局長) 則武宣弘氏(岡山市議会議長)。2,000人のシニアホールかい。ほい。予比合議室に約200人と共に盛況であった。内容は別添資料にあるが、議員は必要で、4つの機能は市民がスマートで完結できるとか、議員はデジタルで良とか、兵庫の若狭議員の所にまた市民に信頼して頂くとか、議員の報酬も上げるとか、相懸の反響を聞くとか、耳をよめる祭りが多々ある。登壇した苦勞を悔いてない者、117-101-1の学者たちが「議会を語る」はどうかと思ふ。また真直市議会は政務活動費に、議員倫理条例をいかに取り進めようと思ふ。

③ しせつ - 約1,000人が、クワンセツの大広間に入山主山外。外のピークがある。歓迎の周知によるアンケートがあるが、後ろにはまた周知、確立だった。議員のモラルの低さもある。先を急ぐとスピーク-直進したアンケートにするべきだと思ふ。

④ 記念品は備前焼のくみ看みとまひんに4つある。以上。

平成26年度 視察等の届出・報告書 (16~20)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
18	8月23日 ~24日	岡崎陽輔		東京都・多摩住民自治研究所「第18回議員の 学校」(人口減少社会と公共施設等についての 研修会)





様式第1号

平成26年 8月 18日

真庭市議会  
議長 長尾 修 殿



真庭市議会議員 岡崎陽輔

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

東京都日野市富士町1番地  
富士電機能力開発センター  
NPO法人多摩住民自治研究所主催第8回議員学校

3 内 容

・公共施設白書から見えてきた施設運営と財政の課題  
・都市計画のインターカと見た公共施設計画  
・人口減少社会と公共施設等についての研究会

4 行 程

8/23, 24  
別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼

必要

不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

## 第8回議員の学校行程表

8月23日(火) 真庭市 → 岡山空港 → 羽田空港  
 羽田 → 水戸~~中央~~ → 豊田 → 富田<sup>環境能力</sup>  
 開業日25-  
 宿邊 立川市

8月24日(水) 立川市 → 豊田 → 羽田空港 → 岡山空港  
 → 真庭市着

平成26年度 視察等の届出・報告書 (16~20)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
19	9月27日 ~28日	河部辰夫	中尾哲雄・ 初本勝	鹿児島市・地方議員研究会（総合計画について）・霧島市（温泉地の活性化についての取組）



研修会参加者行程表及び名簿

9月27日から9月28日 鹿児島サンプラザ天文館地方議員研修会場

9月27日 久世市役所～岡山駅新幹線～鹿児島中央駅～サンプラザ天文館（研修）宿泊  
6、30分 7、42分 10、45分 13、30分

9月28日 ホテル～霧島温泉郷（視察）～～鹿児島駅～～岡山駅～～久世市役所  
8、30 9、30～12、00 13、42分 16、58 18、00分

参加者 河部辰夫、 初本勝、 中尾哲雄

様式第2号

議長 副議長 局長 GL 係 回覧



副議長



局長



GL



係

回覧




# 報告書

平成26年10月8日

真庭市議会議長 長民倫 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名

河部辰夫 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究 研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日時	自 平成26年9月27日 (午訖・午後) 6時00分 至 平成26年9月28日 (午前・午後) 7時00分
2	場所	鹿島郡市天文館カンパザ「地方議員研究会」 鹿島郡会場、及び霧島温泉郷調査
3	用件	総合計画についての研究と温泉地の現状 について。
4	概要	別紙。

\* 総合計画は有効か

1、政策体系と総合計画（予算編成との合理性）

「前年対比という呪縛・思考停止 必要なゼロベース、サンセット型の思考がいる。成熟型社会に必要な「戦略計画」配分計画には、総合計画。重点政策には戦略計画 戦略計画には専門性と政治性が必要である。既得権を打ち破る専門性、地域の未来への構想力とロマン。

2、「整合性」という畀

誰も全体像がつかめない「複雑系」。一步先が読めない変化の激しい時代である。幻想に過ぎない「利害の一致」。拡大する格差。縦割り、総合計画、整合性の終焉。プロジェクトからプロジェクトへ、

3、プロジェクトの意義

総合計画の「べき論」と事業計画の「現実論」。具体的なプロジェクト（実施、手法、変更～）。目に見える、理解しやすさ（合意形成）

戦略性を発揮する「一点突破」、「波及効果」

明確な責任体制による人材育成効果、制約を突破する創意工夫。

人が育てば、次につづくことになる。

総評として総合計画ありきの捉え方は一考する必要がある。

\* 霧島温泉郷 活気がある。観るべき温泉施設。資源が造られている。例えば30万坪の山に3万本の100年杉の雄姿は感動を覚える。わび、寂が心にしみる。また霧島川の清流を活用して若人が芋焼酎とペットボトル水を生産する。「明るい農村」という法人を立ち上げ経営している。特に森林の恩恵に浴している真庭市民にとって必見の価値有り。

政務活動費対応明細	3名分	合計	1人分
交通費		138834	46278
(内訳) 岡山駅～鹿児島駅 (山陽、九州新幹線) 往復		112620	37540✓
オリックスレンタカー		13000✓	4333
高速道 通行料		5130✓	1710
駐車料金		3800✓	126 <sup>6</sup>
燃料代		4284✓	1428
宿泊費 (霧島ホテル)		36000	12000✓
研修費 (セミナー受講料)		45000	15000✓
		219834	73278 <sup>7</sup>
			(1人あたり経費 ¥73278)

平成26年度 視察等の届出・報告書 (16~20)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
20	10月22日 ~24日	古南源二	池田文治・ 原秀樹	大阪府八尾市 (JA 大阪中河内直販所「畑のつづき」) ・和歌山県有田川町 (山椒の栽培) ・和歌山県田辺市 (第8回全国水源の里シンポジウム)





様式第1号

平成26年 9月11日

真庭市議会  
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 古南源二



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

JA大阪中河内「畑のつづき」
有田川町役場清水行政局
第8回全国水源の里シンポジウム

3 内 容

大阪近郊都市の直販店の状況を調査研究。
有田町は山椒の栽培、販売、農家の状況について調査研究。
田辺市では、水源の里シンポジウムに参加して、産業、生活を調査研究。

4 行 程 別紙のとおり 10/22~24

5 事務局から訪問先への依頼 必要 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



第8回全国水源の里シンポジウム参加行程表

10月22日					
出発	自家用車で移動			18:00着	予約済み
7:15	10:00~	午後から			
	JA大阪中河内 直販所「畑のつづき」視察 (9/9時点返事待ち) 八尾市山本町南7-13-22 072-929-9030	有田川町大字清水397-1 有田川長清水行政局 特産物「山椒」の視察 0737-62-2111		紀州みなべロイヤルホテル 白高郡みなべ町山内大目津治348 0739-72-5500	
23日					
	到着11:30 田辺市駅前で昼食	駅からリムジンバス発 12:00	12:50	16:00~20:00	
			和歌山県田辺市 龍神市民センター	龍神温泉	
24日 地域林業コース					
8:00 ホテル発	こまきんスカイタワー 土産物店あり	備長炭記念公園 土産物店あり	秋津野ガルテン ハイキング昼食かも?	田辺駅14:00 発着	帰着18:30

同行参加者：原秀樹、池田文治。



様式第2号



# 報 告 書

平成26年11月4日

報告者 真庭市議会議員 氏名 古南源二



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を代表して報告いたします。

1	日 時	自 平成26年 10月22日 (午前・午後) 7時 00分 至 平成26年 10月 24日 (午前・午後) 8時 30分
2	場 所	八尾市山本町7-13-22JA大阪中河内「畑のつづき」 和歌山県有田川町大字下津野2018-4有田川町清水行政区 和歌山県田辺市龍神村龍神市民センター
3	用 件	大阪近郊都市の直販店の状況を調査研究。 有田町は山椒の栽培、販売、農家の状況について調査研究。 田辺市では、水源の里シンポジウムに参加して、産業、生活を調査研究。
4	概 要	別紙

第8回全国水源の里シンポジウム参加行程表					
10月22日					
出発	7:00	19:00~	午後から	18:00着	予約済み
		JA大阪中河内	有田川町大字清水387-1	紀州みなべロイヤルホテル	
		国産所「畑のつづき」視察	有田川町長清水行政局	白高町みなべ町山内大目津泊348	
		八尾市山本町南7-13-22	特産物「山椒」の視察	0739-72-5500	
		072-929-9030	0737-52-2111		
23日					
	到着11:30		駅からリムジンバス乗	12:50	16:00~20:00
	田辺市駅前で昼食		12:00	和歌山県田辺市	龍神温泉
				龍神市民センター	
24日					
	8:00	地域林業コース	真長炭記念公園	秋津野ガルテン	途中事故で遅れた
ホテル発		ごまきんスカイタワー		バイキング昼食	田辺駅14:00
					解散
					帰郷20:30

別紙1

大阪八尾市山本南町の住宅街にあるJAが経営する「畑のつづき」

説明者は所長の左海恵司。

近鉄安高駅から西に200mほどに位置し、JAのATMもある。

平成20年5月オープン。

店舗40坪、駐車場40坪、半分は駐輪場あまり大きくはない。車4台がやっと駐車できるほど。従業員は3名、内1名は農協職員。パートは6名。

同様の店他に4店舗あり出荷会員数は350名。

この店の登録者は200名ほど、毎日出荷するのは100名程度。

生産者は500m~10 kmに居住しており平均100坪程度の圃場出生産している。

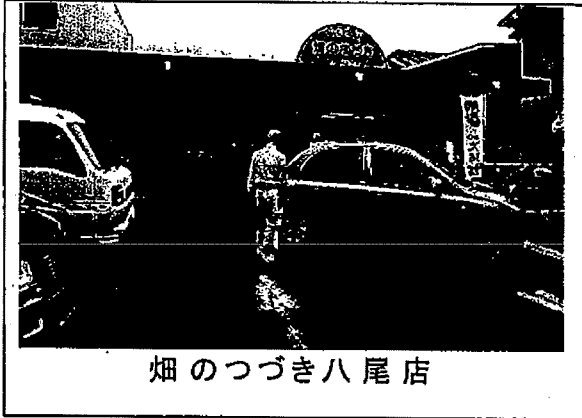
出荷者は、バーコードで表示され自己生産品を生産者、仕入れ販売物を販売者と区別している。

出荷者の7割は女性である。

出荷者の写真を壁上部に張り付けて、顔の見える店づくりをしている。

搬入は、7時から搬入可能で9時までに済みます。販売時間は9時から5時まで。

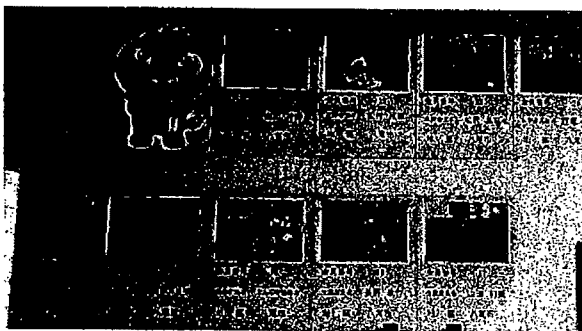
単価は野菜で100円位に抑え量販している。しかし、60円とか70円とかは安すぎて弊害を招く為ダメ。



畑のつづき八尾店



店内の様子



冬は鍋物用の野菜が多く出る。

地域の特産物は葉ゴボウ。米は玄米で販売し精米して持ち帰る。

周辺の住民は、古くからの住宅が多く、高齢者も多い事から仏花が良く売れる。

販売手数料は加工品には20%~35%、野菜など生産者自らの加工品には15%の手数料にしている。

柿150円、仏花350円、ユリ480円。

生鮮物の売れ残りは午後3時半以降に取に来る。また水曜日、土曜日にはすべての商品を一度は引き取る。日持ちのするものは再度販売コーナーに入れることもある。

ポジティブリストを推奨している。問い合わせもある。最低でも薬剤散布から1週間以内は出荷させない。

生産者の年間売り上げは、生産だけでなく仕入れてから販売する花卉が一番多く1000万円を超える人も居る。



店内の様子(仏花)

野菜のみ出荷する人は200~300万円までと言う。

生産には農協の指導員が、少量多品種の生産を指導しているが、生産者は高齢者が多く、経験を重視して言うことを聞かずうまくいっていない。

管内の山手ではミカン(温州)が栽培されており、出荷がある。

餅は日にちを決めて販売する。

視察日に初めての白菜入荷。大きいものは敬遠されがち。切り割って販売すると中央が盛り上がりよろしくない。

今年9月の売り上げは、1400万円ほどあり、毎週日曜日を定休日としている。一週間を通してみると土曜日の売り上げが多いことがわかる。

平成13年の売り上げは12,572万円。大きく黒字にはならないが、赤字にはなっていない。真庭市との比較検討をしてみる必要があるだろう。

有田川町の山椒を視察。

山椒の生産日本一をうたっている有田川町清水地区を訪問。

清水行政区で説明を受けた。

JAありだ清水営農センター長サコ佳永氏、議会議務局長中西満雄氏、副議長岡省吾氏、辻岡敏明議員・小林英世議員、産業振興室長山本勝敬氏・主任福本泰代氏の7名で歓迎を受けた。



清水行政区会議室。中を左からJAサコ氏、岡副議長、辻岡議員、小林議員、中川事務局長、福本主任、山本産業振興室長。大勢から歓迎を受けた。

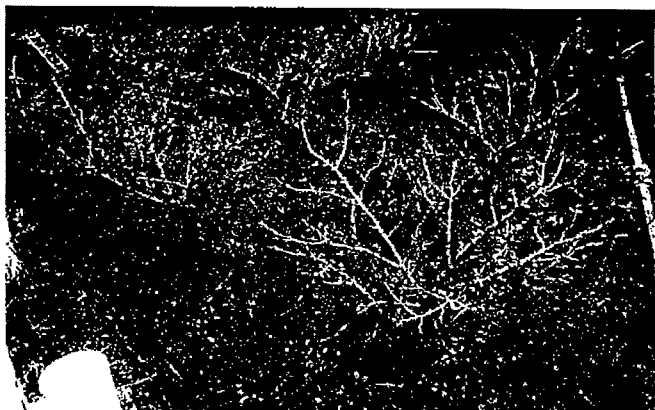
平成23年度栽培面積は105ha。平成25年度清水山椒生産組合員数は266名。5月～6月収穫の生実山椒出荷は、92名、10トン。7月～8月収穫の乾燥山椒は217名、49トン。

JA有田全体では生実山椒60トン。乾燥山椒60トン。

平成26年度生実山椒90トン。乾燥山椒95トン。(販売計画に基づいての出荷量)

収穫量は開花時期の天候に大きく左右される

当清水地区では山椒の生産は古く1250年頃の文献に記されている。当時は主に薬用としてアサクラ・オオグラという品種の栽培だったと思われる。



これくらいの間隔で植えるのが理想。1反あたり70～80本。

現在は、ブドウ山椒（接ぎ木）と呼ばれるものが栽培されている。天保時代に遠井村で突然変異によりできたとされる種類で、実の粒は大きく、香り、辛みとも高品質なので、有田川町野遠井地区（標高 500～600m）で栽培されるようになった。

生で出荷する場合と乾燥させて出荷するものがある。

乾燥山椒は一般の農産物とは異なり特殊な産物である為、古くから産地商人が買い付け、問屋を経由する流通が行われて、生産者が個々に産地商人と取引していた。豊作や不作の差が大きく、性に言いを買いたたかれる年もあった。

昭和 48 年当時の清水町内に野山椒生産者 200 名が参加して清水町山椒生産組合を設立し、産地商人に頼っていた山椒の流通を生産者の手に取り戻した。

組合の活動は、栽培技術の向上と共同販売による価格の安定で有利な販売を行う事が出来た。

各戸まちまちであった栽培技術を統一するため、普及所等の支援を受けながら栽培技術の研究、施肥基準づくり、剪定講習会で作業性向上や実の増収を図り、組合員が参加して栽培。出荷の講習会などを実施している。

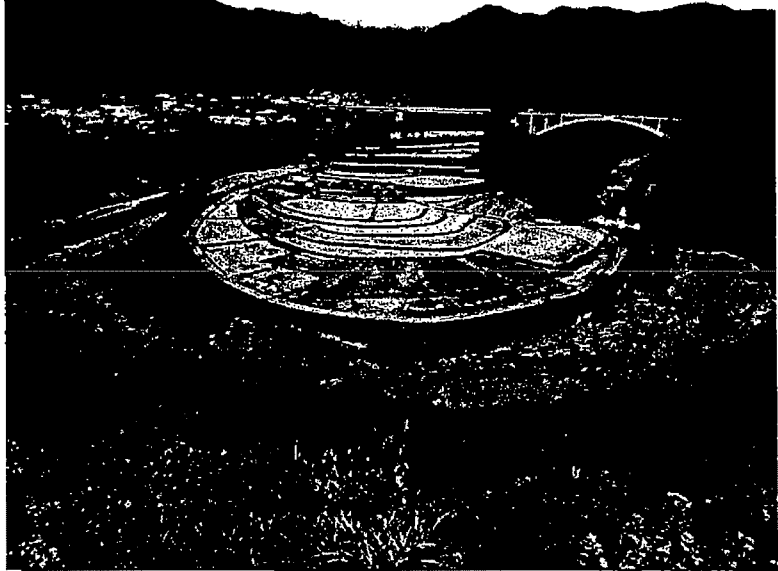
生産された山椒の販売は、生産組合発足当時から、農協での一元集荷、一元販売を行い取引先への量的な対応を行い価格の安定に努めている。

今後の山椒生産・販売については、栽培面積も全国的に拡大しており実山椒（5～6 月収穫）は、高知県産の早期出荷や競合産地の出荷野集中により市場の販売単価も年々低下している。

今までであれば、市場価格が低下すれば、香辛料・薬品用としての感想山椒（7～8 月収穫）への選択肢もあったが、逆に実山椒の栽培面積の増加や安値により乾燥山椒の終了が増大しており、販売ルートの確立を行ったうえで栽培・増産を考える必要がある。

平成16年度から県の帆j鍍金を利用して、3か年計画で「しみず山椒の里プロジェクト」(町、JA、生産者、商工会、観光協会、和歌山県等の関係機関で構成)を構成し山椒の商品開発を進めた。

平成19年以降は県内外の食品製造業者に協力を得ながら商品開発を進めながら、地元で山椒加工に取り組む起業家を育成し、さらなる消費者層の獲得を目指して外食産業や各家庭での利用拡大を推進している。高校生による「カレー甲子園」にも山椒カレーを出した。



有田町清水地区には「あらぎ島」(上の写真)という珍しい風景がある。旧清水町は秋篠宮妃紀子様の祖父の出身地であり、結婚後この地を訪れている。

現在、食品会社とともに開発した商品は、山椒焼酎、山椒の梅酒、山椒ビール、山椒塩、山椒あられ、山椒ラーメン、山椒アイスなどがある。さらなる商品開発を目指し、全国へブドウ山椒の発信を進めている。

### 全国水源の里シンポジウム

真砂充敏田辺市長から歓迎の挨拶があり、昨集中豪雨が報道されるたびに森林の適切な保全の必要性を感じ、水源の里、里山の役割屋や大切さを痛感している。「上流は下流を思い、下流は上流に感

**「里山資本主義」的地域活性化**

① 欧州型の外貨獲得: 安さではなくブランドで勝負  
 当地独自の生活文化に支えられた、ハイセンス・少量生産の「地域ブランド商品」「生活文化観光」で外国人観光客に「いいもの」「ここにしかないもの」を売る。

② 地域内資金循環の拡大: 稼ぎをもっととる  
 地域内産の食材、建材、人材の質を上げて地元で消費し、外からの安物は使わない。未就労女性や障がい者雇用し、時短で「時給」を高め、兼業を奨励する。

③ 地域内エネルギー循環の拡大: 極力地元産を活用  
 地域内の建築物には地元産木材を使い、木質の燃料利用を進める。小水力・風力・地熱・廃熱を余さず使う。



謝する」という基本理念に基づき水資源・森林と里山の維持や重要性を、この龍神村村から全国に発信することで都市と里山の結びつきを再確認する機会にしたい。と結んだ。

龍神村は田辺市市街地化から車で約 1 時間ほどかかり、辺りは植林が山頂付近までされており林業中心の地域だ。温泉があり高野山参拝の後の温泉保養にも利用がある。

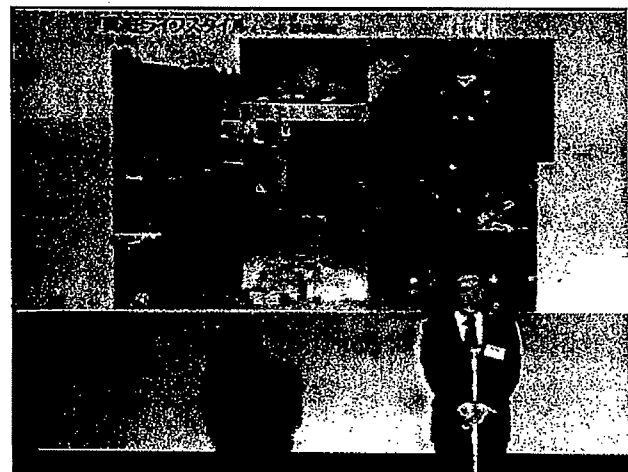
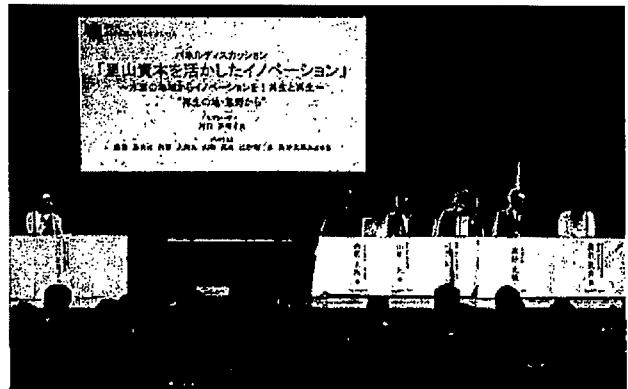
写真コンテストでは、真庭市の「水ごり」大津神社の余野川で新年参拝の水ごりではないかと思われる写真が選ばれていた。

基調講演では、藻谷浩介氏が里山資本主義・水源の里の可能性と題して講演がなされた。

真庭市で行われたように、人口動態グラフを用いて、参加者を回答者にした講演内容には、参加者も聞き入っていた。里山の可能性を論じ、再生可能エネルギーの話は大きな感動を与えたことであろう。

里山の可能性も都会に住んでいる住民が藻谷氏の里山資本主義論に共感を覚え、田舎に生活の場を求めることになれば机上の空論のように思えてならない。都会の人口の5%でも田舎に移動させることが出来れば言うことはない。

パネルディスカッションでは、河口真理子大和総研研究員をコーディネーターにパネリストは、藻谷氏、田辺市長、IBMを退社後世界を回り飛騨高山で田舎の案内人をしている山田氏をはじめ、東京大学大学院を卒業して福岡県上毛町に移住し地域お



こし協力隊と農業をしている西塔氏、中辺字路町に移住している辻野氏が現在の活動内容を紹介し、今後の希望を述べていた。

最後に次回開催都市に真庭市が決まり、太田市長が次回開催地としての挨拶と抱負を述べていた。

夜行われた懇親会では備長炭で作った楽器「炭琴(たんきん)」の演奏が披露され、「ふるさと」の演奏と備長炭の澄んだ音色は素晴らしかった。  
(右の写真)



2日目は竜神温泉からさらに奥、車で坂道を上る事約40分、一気に標高600m以上も上った。和歌山県最高峰護摩壇山近くにある展望台に向かった。前日は霧がかかって何も見えない状況だったと、指定管理をしているNPOの職員が話していたが、標高1300mのごまさんスカイタワーからの眺望は素晴らしく、有田市の海まで見えた。連なる連山は紅葉が始まりかけていた。次の視察地に向かう為、車は坂道を一気に1000mも下る事約1時間。



備長炭記念館。説明人から備長炭の発祥や当時の炭焼きの生活様式などを聞きながら記念館の中を巡った。江戸時代炭の販売商備中屋長左衛門の名前から備長炭と呼ばれるようになったとか。備長炭は土佐、日向などがある。



備長炭の炭焼き窯の内部。煉瓦造りだ。

備長炭の炭焼き窯もみることが出来た。大きいもので 1 回に700kgほどの炭を焼くことのできる窯があった。1 回焼くと製品になるまで 2 週間ほどかかる。

紀州備長炭は、ウバメガシを原料にしており、原木は周囲の山に自生している。個人で伐採する人、伐採人に委託する人、1 窯分 15 万円ほどの原木を購入する人等様々である。

この地域の炭焼きは手前の入口から入り、原木を立ててから着火する。高知県では着火して窯の上部の口から原木を投入する方法もある。後述の方が多くの炭が焼けるという。

炭の単価はkgあたり 1000 円から 1500 円ほどである。備長炭はうなぎ店をはじめ高級料亭などで利用されており、焼いた炭はすべて販売され、手元に残ることはないが、炭焼きのみで生活するのは難しいようである。

炭焼き研修生として、県内や関東から移住している人がいた。

窯出しの校外学習に訪れる学校もあるという。視察の前日、大阪の生徒が窯出しをして灰をかけている窯もあった。

秋津のガルテンで昼食。

田辺市街近くまで帰ると、秋津野ガルテンに着いた。昭和 28 年に建てられた古い校舎(写真右下)を改装して宿泊施設、食堂、売店を備えた施設であった。旧遷喬小学校の方が高級感もあり価値がちがう。



真っ赤な炭を取り出して手前で灰をかけてある様子。



備長炭記念公園風景



館長から施設の紹介(写真右上)があり、地域の主婦が作った、手作りのバイキングランチをごちそうになった。

メニューはわかめご飯とカレーライス。おかずはこんにゃく料理2点、てんぷら、おひたし、筑前煮など10品ほどである。デザートのコーヒーもあり、食べ放題ですべて無料が何よりも良かった。

地域の協力が無ければ何事も進まないのが現状であるが、この地域は良くまとまっている感じがした。

綾部市からの視察団は、次の視察先の農産品販売所には行かないということなので、我われの車も行かないことにして田辺駅に直行。車には三重県津市の女性職員、島根県美郷町長、広島県神石高原町長が同乗しており、山間地の問題など有意義な会話が弾み「来年必ず真庭市においで下さい。お待ちしております。」とお誘いをして固い握手で解散した。

以上3人を代表して報告します。

